

金属本部



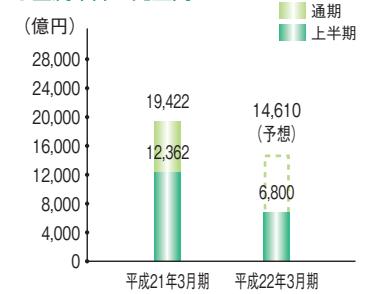
鉄鋼分野では今年度に入り自動車メーカーの在庫調整が進み、需要が増加したため緩やかに回復しました。

非鉄金属分野では、ベトナムにおいて政府系企業と共同で鉱山開発の準備をするなど引き続き世界各国でレアアースを中心に資源確保に努めました。

鉄鋼原料分野では、英国と北海道の鉄スクラップ加工会社が本格稼動しました。

しかしながら、自動車メーカーの減産等の影響により、売上高は前年同期を5,562億円(45.0%)下回る6,800億円となりました。

●金属本部の売上高



機械・エレクトロニクス本部



機械分野では、機械専門商社の(株)豊通マシナリーを設立し、営業力を強化しました。

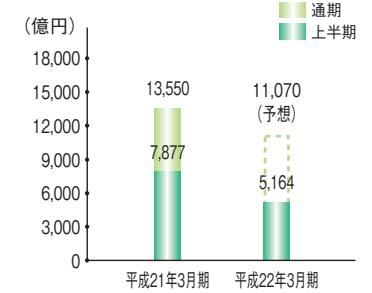
建設機械分野では、欧米での販売強化、新興国市場開拓を目指し、小型建機の専門メーカーである(株)竹内製作所に資本参加しました。

情報・電子分野では、ハイブリッド車向け電子部品が堅調に推移しました。

自動車生産用部品分野では、部品販売が中国市場向けを中心に回復基調となりました。

しかしながら、自動車メーカーの減産および設備投資の減少等の影響により、売上高は前年同期を2,713億円(34.4%)下回る5,164億円となりました。

●機械・エレクトロニクス本部の売上高



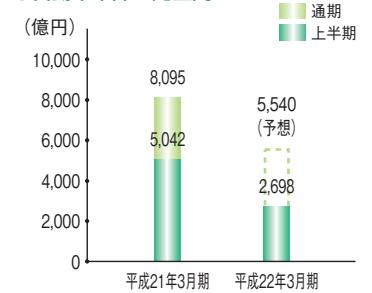
自動車本部



既存販売拠点の顧客対応やサービスなどの経営品質の強化・改善に努めるとともに、拠点および設備の拡充を推進しました。

しかしながら、ロシア、アフリカなど資源・新興国における自動車販売の低迷が続き、売上高は前年同期を2,344億円(46.5%)下回る2,698億円となりました。

●自動車本部の売上高



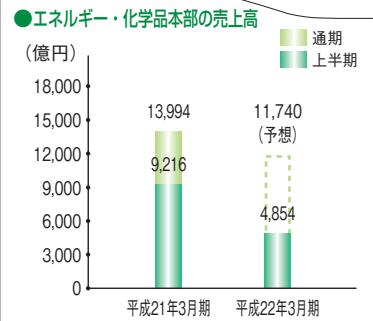
エネルギー・化学品本部



化学品合成樹脂分野では、高性能プラスチックの現地調達ニーズに対応するため、米国に合成樹脂コンパウンド事業会社を設立しました。

エネルギー・プラント分野では、長期安定収益が見込める海外発電事業強化の一環として、中部電力(株)と共同で、天然ガスを利用した火力発電事業であるカナダ・ゴアウェイ発電プロジェクトに参画しました。

しかしながら、市況の下落等により、売上高は前年同期を4,362億円(47.3%)下回る4,854億円となりました。



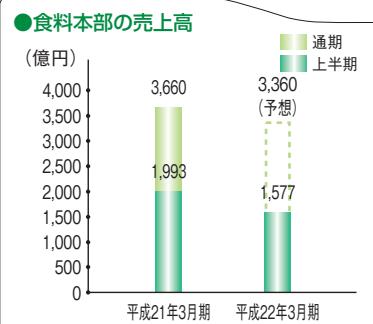
食料本部



穀物分野では、海外市場の開拓を図るべく、中国への大豆の三国間取引および中国からの大豆粕輸入について新規に成約しました。

食品分野では、安心・安全な国産野菜の需要に応えるべく、2ヶ所目の国内野菜生産施設の建設に着手しました。

しかしながら、市況の下落等の影響を受け、売上高は前年同期を416億円(20.9%)下回る1,577億円となりました。



生活産業・資材本部



繊維製品分野では、当社で初めての参入となる海外アパレル小売会社「JFT Holdings Limited」の旗艦店を香港にオープンしました。

自動車資材分野では、高級車種向けの内装材ビジネスは、依然厳しい状況が続きました。

また、不動産関連ビジネスも引き続き厳しい状況が続いたため、売上高は前年同期を441億円(25.5%)下回る1,286億円となりました。

